

【田子町教育委員会】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

- (1) 児童生徒自身がICTを学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるようにし、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成する。
- (2) ICTの特性を最大限活用して、誰1人取り残すことなくきめ細かな支援をし、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会や多様な学びの機会の充実を目指す。
- (3) 児童生徒が自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持つことで、情報を正しく安全に利用できるよう、情報モラルの向上と情報セキュリティ意識の醸成を図るとともに、デジタル技術の活用を通して、社会に積極的に関与し、参加する能力の学習を目指す。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想の下、国庫補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、高速大容量の校内LANや1人1台端末、大型提示装置等の一体的な整備を行い、学校におけるICT環境の充実を図ってきた。

学習用端末については、令和2年度から国庫補助金（公立学校情報機器整備費補助金）や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、令和3年度までで1人1台端末の整備を完了した。令和2年度に普通教室への無線LAN整備及び電源キャビネットの整備を実施したほか、当該校内通信ネットワークのためのインターネット回線を整備し学習用無線LANの運用を開始した。また、令和5年度に町立小学校の統廃合があり、廃校となった学校で整備していた、LTEルーターを回収し、各学校の特別教室等で運用しICT環境の拡充を図った。

ICT環境及び機器が整備され、授業等での活用機会が増加したものの、特別教室等でのネットワーク環境は使用できるものの十分な通信帯域があるとは言えない。デジタル教材等のソフト面についても整備はしたが、教員等の使用方法に係る定期的な研修が不十分であったため、児童生徒が主体的に行う持ち帰り学習を推進するところまでは至らなかった。しかし、教育委員会で委託しているICT支援業務では、派遣される支援員により、学習者用端末の活用方法の指導やICTを活用した授業が増え、児童生徒及び教員にとって、ICT環境が学校生活において必要不可欠となっている。

これにより、GIGA第2期においては、LTE通信のネットワーク環境から無線LAN環境への移行、デジタル教材の活用に係る指導の徹底、1人1台端末の持ち帰りをさらに推進し家庭での利活用も含めて、主体的に学習に取り組み、個別最適な学びの充実に向けた機会を創出することが重要である。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末については、GIGA第1期の総括を踏まえ、授業等で自然と利活用できるような環境を目指し整備していく。そのために、児童生徒及び教員が安全に使用できるよう、セキュリティソフト及び見守り支援ツールにより管理体制を維持していく。また、アクセス制御による対策を講じた上で、学習系ネットワークと校務系ネットワークの統合や汎用のクラウドツールの積極的な活用を推進する。

1人1台端末を活用した授業実践については、教員研修等またはICT支援員による授業支援を実施し、教員が抱えているICT機器等への苦手意識を払拭し、更なる活用を目指す。

また、児童生徒については、個に応じた学びについても重視し、学習から取り残さず、集中した授業づくりを実施するため、デジタル教材等での個別最適な学びの取組を展開する。

ICT教育で目指す将来的な目標として、2025年から大学受験に追加される情報科目への対応や情報社会で必要な知識等を身に着けるため、プログラミング学習から進学・就職で生きる力を養っていく。